発行　京都市保育園保護者会連合協議会
604-8854　京都府京都市中京区壬生仙念町 30-2
ラボール京都（京都労働者総合会館）５階
TEL.075-801-8810 / FAX.075-822-6220
E-mail: info@shihoren.net
https://kyotoshihoren.wixsite.com/my-site
京都市保育園保護者会連合協議会

京都市保育園保護者会連合協議会
市保連ニュース
2023 年
3 月号

市保連主催学習会を開催しました！

2 月 11 日に佛教大学二条キャンパスとオンラインにて、「保護者会は何のため？～改めて保護者・保護者会の役割を考えてみませんか」を開催し、対面・オンラインあわせて約 50 名の参加がありました。

保育園を考える親の会顧問の普光院亜紀さんより「保護者会は何のため？保護者がつながる意味、保護者が発信する意義」というテーマで基調講演をしていただきました。親の会が設立された 1983 年は、働く親というのはマイノリティでありその支え合いの会として発足し、その後、交流や相談活動を中心に行ってきたそうですが、近年、保護者の多忙化や個人の考え方を大切にする風潮の高まりなどにより会の運営などが難しくなってきたとのことでした。しかしながら交流や情報を求める保護者のニーズはなくなったわけではないので、活動の軽量化などを工夫しながら世代交代も進めてきたとのことです。

保護者とは、保育園にとっては“お客様”ではなく、保育者とともに保育の場をつくる一員です。保護者と保育者のパートナー関係により、子どもが育つコミュニティを良くしていくことや、その一環として保育の質を確保するために行政への働きかけの重要であるということでした。保護者が発信する意義としては、保育から直接影響を受ける子どもを代弁して発信することは子どもの権利保障のためにも重要であり、保護者、保育者、事業者など様々な立場から発信することで大きな声になるとのことでした。

その後に、保護者会役員、保育園園長、市保連事務局メンバーに普光院さんを交えてのシンポジウムを行い、それぞれの園の取り組みや園長からみた保護者会の役割（保護者会に園運営を支えてもらっていると言っていただきありがたかったです）などの具体例を交えて深めることができました。



コロナ禍が長期化するなかで各園の保護者会活動や市保連の活動の難しさを実感する日々でしたが、普光院さんのお話から改めて保護者のつながりや保護者会の意義、そして発信をすることの重要性などを理解することができました。何より、もう少しだけ頑張ってみようかなという元気をもらうことのできた学習会となりました。

＊本学習会の動画については、事務局の不手際により登壇者に未確認の部分が含まれておりましたので、公開を中止させていただきました。ご迷惑をおかけして申し訳ありません。視聴を希望される方には、その方限りで URL をお伝えさせていただきますので、市保連事務局までご連絡ください（他には拡散しないようご留意ください）。

参加された方の感想

感想①

普光院亜紀さん他、講演会での皆さまのご発言すべてに共感・納得し、あらためて自分と保育園との関わりや社会との関わりを考える機会となりました。

我が家の保育園生活はあと残り数えるほど、3 月末日をもって卒園します。この 6 年間の園生活のうち1年間は保護者会会長の役を担い、多くを経験させて頂きました。恥ずかしながら、この経験がなければ、保育に関わる問題を主体的に考えることもなかっただろうと思うほど無知でしたが充実した一年でした。

講演会である保護者さんのご発言にあったように、いままで仕事一辺倒だった私が「保護者」という立場になったことで、新たな交流関係や多様な視点を持つことができたのも、保護者会があってこそでした。

田中会長が仰っていた「ひとりひとりが孤立しない子育て」を実現するには、やはり保護者会の存在が大きいと私自身実感しています。保護者会で出会った方々とは今でもつながっており、互いの忙しさを慰め、励まし合う「同士」のような存在です。 分単位で時間に追われる多忙な日常のなか、この横のつながりでいつも何だか肩の力が楽になるのは「大変なのは自分だけじゃない」、何かあっても「お互いさま」だと気づかせてくれるからです。 そして、お互いの子どもを気に掛け、その成長を近所のおばちゃん的な気分で見守るのも我が子の子育てとは別の楽しみでもあります。

地域とのつながりの話もなるほど、と思いました。そういえば我が家も、保育園が仕入れている八百屋がいまや行きつけとなっています。スーパーの野菜よりは少しお高いですが、店の方が娘にも声をかけて下さり、小学校の通学路にそのような店があるのは今後の生活にとって安心です。

ただ、周りの保護者全員が、私のように保護者会に価値を見出すことのないことも実感しています。任期中、「保護者会が負担」との意見が寄せられ、保護者会とはどのようにあるべきかを考える機会がありました。

コロナ禍ゆえに生じる問題、例えば対面でコミュニケーションがとりづらいことから生じる相互理解の行き違い等も「負担」という報告もありましたが、やはりコロナ前の保護者会活動を知らない保護者は特に、保護者会に対する負担を多く感じられている様子でした。

普光院さんの仰るような、まずは参加しやすい保護者会として、その活動を通して「やりがい」や「楽しさ」を実感することで、保護者・こども・保育園の三者のつながりをゴールとして共有できるようなあり方が理想だと考えています。

互いにつながることはある意味、「おせっかいを焼く」ことかも知れません。
互いの領域にすこし触れること。関係性を持つことで、互いを気に掛け、問題を見過ごさないようにすること。
でもそんな「おせっかい」がある社会はきっと、誰にとってもあたたかく、過ごしやすい環境であると想像します。

卒園後も、そのあたたかみを知る者として、園や保育、社会の問題を引き続き考え、周りとのつながりを大切にしていきたいと思っています。

感想②

基調講演のまとめにもある通り、「保護者組織は、園生活を安心して楽しむためにも役立つもの、子どもを守るために必要なものと感じてもらえることが必要」というのは同感だ。また、運営や施設、保育士とは別の立場から保育の問題を考え、子どもを守るための発信をするためには、一保護者では難しいことも集団化することで可能になるのは、当保護者

会でも署名活動の担当委員を据えて活動を行っており、実感している。

保護者会のような保護者組織には、親同士がつながり、支え合うための機能があり、保育や子育てについて孤立しがちな保護者を包摂することができる。いわば、保育園という施設がもつインフラの一つなのだと感じた。その意味では、保育園に保護者会があり、保護者が孤立せず、様々な情報を融通し合うことができるのは、保育の場に備わる機能のひとつであり、価値といえる。我々の通う保育園の近隣にも保護者会のない保育園も存在しているが、保育園という場が託児サービスを提供するだけの場ではなく、保育所保育指針では両者の相互理解と連携が求められているとすると、その実態はどのようなものだろうか。

保護者会の活動や役員を厭う保護者の要望には適っているのだろうが、育ち/子育ての場としての機能としては見劣りするように思う。また、ベネッセの調査からはコロナ過で保護者同士のつながりが弱まり、情報交換が難しくなっている半面、園への要望は増加しているという現状を窺えた。個人的にはここ数年の保護者会参加で、「安心で楽しい」が、人によりそれぞれ、ご家庭それぞれに違った考え方・価値観を持っていると実感している。楽しく感じる範囲も、各々の抱える問題との適合性も異なり、特に「楽しい=ライトで重苦しくない」という感覚を持っている方は、署名運動や行政への訴えなどには距離を置きたいと考えているのかなと感じるなど。たしかに、温度差のようなものを埋め合わせる工夫は模索しなければならないと思わせられる場面は度々あった。

京都市会へ陳情を出しました！

市保連より京都市会に「保育政策の改善を求める陳情書」を提出しました。陳情項目は、皆さんよりご回答いただいたアンケート結果（HP 参照）をもとに作成しました。提出した陳情は 3 月 15 日の教育福祉委員会にて審議されました。

【陳情項目】

- 不適切保育や虐待に関する行政の 相談体制、具体的な対応手順を整え 、解決への道筋が見えるように保護者に周知してください 。
- きょうだいが同一の園に入園できることを保障してください。 きょうだいが同一の園に入れないことは 潜在的待機児童の理由ともなっており、その 解消にもつながります。
- 補助金削減を中止してください。従来の仕組みを変更するとしても補助金の総額については元に戻してください。アレルギー児、障害児、 医ケア児、 外国ルーツの子どもが入園しやすいよう仕組みを整え、給食の調理員の３人目以降の給与も正規並みを保障してください。施設整備のための補助金を保障してください。そして、保育士配置基準のさらなる改善を進めてください。
- 保育料の引き下げ を進めてください。特に 2 人目、 3 人目の減免について同時入所の要件を止め 、どの子も同じように減免が受けられるよう公平な制度にしてください。 希望する数の子どもを持てるかどうかに関わり、 少子化対策としても重要な政策です。

市会議員候補者に公開質問状を出しました！

4 月の京都市会議員選挙に候補者を立てておられる政党ならびに無所属の候補者当てに保育園保護者の立場から公開質問状を出しました。回答については、3 月 25 日までに回答があったものについては本会報に同封しており、それ以降のものについては随時市保連 HP や SNS 等で掲出させていただきます。ぜひお読みいただき、子育て世帯の声を反映する京都市会にできたらと思います。

第 5 回保護者会活動交流会のお知らせ

第 5 回保護者会活動交流会を下記の通り開催します。

日時：2023 年 4 月 13 日（木）19 時から 21 時

場所：京都市こどもみらい館（京都市中京区間街通竹屋町下る楠木町 601―1）

オンライン参加（ZOOM使用）も可能です。

保育体制は確保しておりません。ご了承ください。

※リモート参加をご希望の方は、市保連事務局へメール（info@shihoren.net）にてご連絡下さい。
当日までに事務局よりZOOMミーティングID・レジュメなどをお送りします。

※各園の保護者会役員が抱える悩みを相談し合い、他の保育園の状況についても知り、交流する機会ともなります。未加盟の保護者会、保護者個人でのオブザーバー参加も歓迎します。
お仕事と子育てで大変お忙しい日々と思いますが、皆様ぜひご参加ください。

2023 年度市保連総会

日時： 7 月 9 日（日）10：00～12：00

※時間や場所・内容の詳細、議案書等は改めて加盟園宛に郵送させていただきます。

ぜひご予定ください！

保護者の学習会・講演会、市保連がお手伝いします。

保育や子育て、子どもの発達のことなどについて、保護者同士で一緒に考えたり、理解を深めたりするため、各保護者会で保護者向けの学習会や講演会を企画されることも多いのではないでしょうか。でも企画を立てたいけど、どんなテーマでやれば良いのかわからない、どんな講師を呼んだら良いか、どうやって呼んだら良いか分からないといった悩みもあるようです。

市保連では、企画やテーマについてのご相談に応じたり、関係団体とも協力しながら講師を紹介・派遣したりするなど、学習会・講演会のコーディネートをお手伝いしています。各保護者会の総会などに合わせたミニ学習会なども可能です。まずはご相談ください。

メールアドレス(info@shihoren.net)を再開します！

昨年秋より市保連公式メールアドレス(info@shihoren.net)の運用を一時休止しておりましたが、再開しました。長らくご不便をおかけして申し訳ありません！市保連宛のご連絡等ありましたら、こちらまでご連絡ください。